

いま、戦争と平和を考える

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻で、人々の命と暮らしが脅かされる状況が続く、今年の夏。戦争が決して遠い昔の出来事でも、ひとごとでもないことに、あらためて気付かされます。戦争と平和について考えるきっかけになればと、これらの番組をご用意しました。

▼NHKスペシャル

「戦火の放送局～ウクライナ公共放送の闘い～(仮)」

放送予定:8月7日(日) 後9:00～9:49

「これは他でもない自分の国で起きている戦争です。亡くなっているのは私にとってひとりひとりが同胞であり、親類や友人かも知れないのです。」
—アナスタシーヤ記者



ロシア軍の侵攻以降、ウクライナで情報発信の最前線となっている現場がある。国内最大のネットワークを誇る公共放送「ススピーリネ」だ。鳴り響く防空警報の下でも、臨時拠点から24時間、国内外に放送・配信を続けてきた。

5年前の開局以来、技術支援を続けてきた縁からNHKは内部での独占取材が許された。5ヶ月にわたる取材から見てきたのは、ロシア側が仕掛ける激しいプロパガンダ攻勢の実態や、ウクライナ政府から課される戒厳令下の報道規制、そして同僚や友人たちの命が危険にさらされる中で、何をどう報じていくのか苦悩する職員たちの姿だった。

番組では、自らも戦争の当事者として、愛国心や敵愾心、ジャーナリストとしての責務の間で揺れ動く職員ひとりひとりの葛藤を記録。「戦争を伝える」とはどういうことなのか、見つめる。



▼NHKスペシャル 新・ドキュメント太平洋戦争

第2回 1942 大日本帝国の分岐点

“戦争”という巨大な出来事を前に、私たち日本人は何を考えどんな現実を目の当たりにしたのか。80年前の戦争中、人々が心の内を綴った日記や手記＝“エゴ・ドキュメント”を基に、「個」の視点から戦争の時代を追体験するシリーズ「新・ドキュメント太平洋戦争」。去年大きな反響を得た「1941・開戦」に続く第2弾、大日本帝国の命運を分けた分岐点・1942年を紐解く。

【前編】 放送予定:8月13日(土) 後 10:00～10:54

真珠湾後、連戦連勝で最大の勢力圏を築いた日本。軍の一部はさらなる戦線拡大を主張。自衛のためだった戦争目的は日本を盟主とする「大東亜共栄圏の建設」へと置き換えられた。企業人はビジネスチャンスを求め大挙して南方へ向かい、欧米への劣等感を抱いてきた市民も日本民族の“優越性”に酔いしれた。しかし6月を境に状況は暗転していく。ミッドウェー海戦の大敗北。未曾有の失態をいかに国民に伝えるか。開戦当初は正確だった「大本営発表」がウソで塗り固められていく生々しい舞台裏が浮かび上がる。ラジオ・新聞などのメディアも軍に加担。“フェイク・ニュース”が蔓延し、国民は正しい情報から遠ざけられていく。戦争に直面した社会の“明”から“暗”への転換を描く。



【後編】 放送予定:8月14日(日) 後9:00～9:54

後編では、激戦となった「太平洋の戦場」、戦時体制の下の「銃後」、そして日本軍の統治下にあった「東南アジアの国々」という3つの現場をカットバックしながら、暗転していく日本の戦争を見ていく。アジア解放という理想のもと大東亜共栄圏の建設に邁進した日本。今回、各国で貴重なエゴ・ドキュメントを収集。戦争初期には、解放者として日本を歓迎する記述もあったが、やがて疑念や不満で埋め尽くされていく。「なぜ日本がアジアの盟主



なのか」。軍政にあたった日本軍将校の日記には、力で押さえつけなければ統治できないやり方に不満と幻滅が記されていた。そうした中、ミッドウェーに続き、戦局を大きく左右する戦いが始まる。ガダルカナルだ。エゴ・ドキュメントを基に、日米両軍の目線から戦場を再現。激戦を制したアメリカは日本兵の遺体から戦場日誌を収集し、日本人の精神主義を分析。ガダルカナルの勝利を東南アジアでも流布し、日本軍への抵抗を加速させていく。一方、日本の国民は、戦場の実態やアジア統治の現実にはフタをされたまま、“勝利”を盲信し、戦争はさらなる悲劇的局面へと進むことになる。

新・ドキュメント 太平洋戦争 1942

■エゴ・ドキュメントを朗読するのは世代を代表する俳優陣

第1回に引き続き、80年前の市民や兵士たちの日記・手記を朗読するのは実力派俳優陣。当時の言葉を大事に伝えていきます。

國村隼 松重豊 西島秀俊 柄本佑 高良健吾 橋本愛 小野花梨 ほか（順不同）

「NHK 戦争を伝えるミュージアム」8月1日公開予定

太平洋戦争についてあまり詳しくない、もっと深く知りたいという視聴者・ユーザーに向けて、NHK スペシャルなどで取り上げるテーマや、ネット上で検索が多いテーマなどを解説。NHK のプラットフォーム上にある記事や動画などのコンテンツへとつなぐウェブページ「NHK 戦争を伝えるミュージアム」を NHK アーカイブスのサイト内に開設します。「太平洋戦争をわかりやすく」と題した解説記事、「戦争証言アーカイブス」や「NHK for School」の既存の動画や記事、NHK スペシャルで過去に制作した戦争関連の特設サイトなどをつなぎ、ユーザーの関心に沿ってお伝えします。戦争に関する「そもそもの話」から、「より深い知識」へ、大切なテーマについて「知」の深まりを提供します。太平洋戦争80年で展開するプロジェクトに合わせ、2025年にフルオープン予定です。

<https://www.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/special/warmuseum>

▼特集ドラマ「アイドル」 放送予定:8月11日(木・祝) 後7:30~8:43

“私はスターなんかじゃない、アイドルよ” これは、“アイドル”の原点の物語

いつの時代も若者を熱狂させ、ときめかせる“アイドル”。昭和初期から終戦間際まで、戦時下の日本で、1日も休むことなく営業を続けた劇場「ムーンルージュ・新宿座」は、“アイドルに会いに行ける劇場”でもあった。ファンとともに成長し、劇場の絶対的エースとなった明日待子。日本が戦争へと進む中でも、ファンの声援に笑顔で応え、ステージで歌い、踊り続けた…



主演 古川琴音(小野寺とし子/明日待子)

岩手から上京し、ムーンルージュのオーディションに受かり、座員となる。下積み時代を過ごす中、ある事がきっかけで、センターに抜擢され、トップアイドルへの道を歩み始める。

古川琴音さん コメント

戦争と共に生きた、まっちゃん。どんな時代だったとしても、ファンが明日を楽しみに待てるような、そんな希望を与え続けた、まっちゃんの煌めきを届けられたらと思います。とにかく、懸命に歌って踊って、演じました。是非、たくさんの方に見ていただくと嬉しいです！」

【あらすじ】

昭和 11 年、岩手から上京した小野寺とし子(古川琴音)はスターになるため、新宿の劇場「ムーンルージュ」のオーディションを受ける。その場で支配人兼プロデューサーの佐々木千里(椎名桔平)や劇場の看板女優・高輪芳子(愛希れいか)の目に留まり、座員として劇場で働き始める。とし子は下積み生活を続け、寝る間を惜しみ、1日の大半を稽古や本番のステージに費やしていた。そんな中、ある事がきっかけで、とし子はステージのセンターに立ち、歌い踊ることになる。半年後、とし子は名前を“明日待子”に変え、同僚の小柳ナナ子(田村芽実)らとともに、若手グループを結成し、圧倒的人気を誇っていた。大勢のファンが詰めかけ、劇場は連日満員御礼となった。待子は不動のセンターとなり、ファン一人一人の恋人“アイドル”となった。その一方、日本は戦争へ突き進み、その影響はムーンルージュにも及んだ。劇場のシンボルだった赤い風車を取り外され、看板俳優の山口正太郎(山崎育三郎)も出征し、やがて待子も戦地のファンの期待に応えようと、戦争に協力していく…。

【制作にあたって 制作統括 内田ゆき】

戦争下の日本にアイドルがいた！その劇場名はムーランルージュ！史実に驚くところから、ドラマ作りが始まりました。写真のうえでの明日待子、そしてアイドルたちはキラキラした笑顔。ムーランに日参し、“推し”に熱狂するファンたち。輝くアイドルのステージに夢と希望を載せ、戦争の時代にエンタメを守ろうとした人たちの営みが確かにあったのです。「アイドル」は実在したアイドル、まっちゃんこと明日待子が駆けぬけた日々を描くドラマであり、歌やダンスをふんだんに取り入れてつむいだエンターテインメントです。古川琴音さんたち出演者の猛稽古で仕上がったショーのシーンは、見どころと呼ぶにふさわしい、どれも圧巻の出来となっております。戦争の記憶が年々遠ざかっている今、ウクライナ侵攻による危機が続く今、剣よりも強くあろうとするエンターテインメントの力を、楽しく、そして深く見て頂ければ幸いです。



【放送予定】 2022年8月11日(木・祝) 19:30~20:43<73分> **【総合テレビ】**

8月29日(月) 21:00~22:29<89分> **【BSプレミアム(BS4K同時)】**

【作】 八津弘幸 (連続テレビ小説「おちよやん」、「半沢直樹」、「下町ロケット」、「陸王」など)

【音楽】 宮川彬良

【出演】 古川琴音 山崎育三郎 愛希れいか 正門良規(A え! group/関西ジャニーズ Jr.)
田村芽実 椎名桔平 ほか